森小学校だより

平成24年度
6月号

「いじめは、絶対許さない」

以下は、５月の会礼で子どもたちに話した内容です。

新しい年度になってちょうど１か月半が経ちました。**どうですか？学校生活、楽しいことやうれしいことがたくさんありましたか？それとも、辛いことやいやなことの方がたくさんありましたか？**

辛いことやいやなことの方がたくさんあった人にとっては、それを乗り越えるのが大変だったと思います。でも、よくがんばりました。このことは、これからの自分にすごい自信と力になります。人は、こうして強い人間になります。

辛いことやいやなことの中に、友達にいじわるされたり、仲間外れにされたり、無視されたり、悪口を言われたりした人がいると思います。

ちょっとふざけたつもりでやったことが、相手をどれだけ傷つけているか。この気持ちは、傷つけられた人でなければ分かりません。人間は友達をいじめたり、仲間外れにしたり、物を隠したり取ったり、無視したり悪口を言ったりする権利は誰にもありません。あるのは、**人間はお互いに助け合ったり協力したりする義務があるだけです。**

みんなも知っているように、いじめのことが新聞やテレビによく出ます。中には、ひどいいじめにあって、自殺してしまった友達が何人もいました。後で、「ごめんなさい」と言って反省しても、一度いじめられた人にとっては忘れようとしても絶対忘れられません。
いじめた人も、みんなから「あの子は悪い子だ」と言われ、自分だけでなくお父さんやお母さん、家族みんながいやな思いをしなければなりません。

人をいじめて得をすることなど、一つもありません。損をするばかりか、自分の人生を無駄にすることになります。**森小の先生方は、いじめは絶対に許しません。**みんなも、いじめを許してはいけません。

最後に、いじめによる少年の自殺がテレビで報道された次の日の朝に、ある先生が読んでくれた詩を紹介します。**書いた人は、山尾三省という詩人です。**人の命について、周りの全ての物の命について考えさせられる詩だと思います。

たまご
たまごは　にわとりから　うまれる
にわとりは　おしりから　ポトン　とたまごをうむ
そのときにわとりは
せいせいしたように　おしりをぷるぷるっとふる
そして　しばらくは
たまごのうえにすわっている
そのたまごに　さわってみると　あついほどにあたたかい
そのあついほどのあたたかさが
いのち　なんだね
ぼくたちは　そのいのちを　たまごやきにしたり　めだまやきにしたり
ゆでたまごにしてたべる
いのちが　いのちをたべるんだね
そしてそれが　おいしいんだね
そしてそれが　かなしいんだね
ぼくは　たまごやきやめだまやきがとてもすきだから
にわとりをたくさんかっている
にわとりをかうと
たまご　というものが　とてもたいせつだということが　わかってくる

森小学校には、いじめる子が一人もいないことを願っています。一人一人の皆さんが、友達と助け合い、協力し合い、励まし合って自分自身にとって、楽しいと笑顔で言えるような学校生活を送ってほしいと思います。